

Challenge

SX-70 BLEND フィルム

エー・パワー・ドクター・アンド

ポラロイドがSX-70フィルムの販売を終了してから早1年。SX-70カメラファンの間ではその再生産を望む声が日に日に高まっている。そんな折、オーストリア・ウィーンからおもしろいニュースが舞い込んできた。「SX-70 BLENDフィルムの日本総代理店にならないか?」。思わず飛びついたのはいうまでもない。というのも私、ドクター・アンドは日本ポラロイド在籍中(2004年ごろ)に「SX-70フィルム再生産プロジェクトチーム」の一員だったからだ。

あの「色」を目指して

その当時にわかっていたことは「SX-70/TZ乳剤(STAR乳剤という)の再生産はいっさい不可能」ということ。基本はT-600のターボクリア乳剤を応用せざるを得ないということ。ではどうやってISO 600のフィルムをISO150に減感させるか? 当時はフィルムのパジシート(透明ラミネート)をNDフィルターに変えるという方法で話が進んでいた。ドクター・アンド的にはSTAR乳剤の「あの」色がだせないのなら意味がないとあまり乗り気ではなかった。

その後、日本ポラロイドを去らねばならない立場となり、「SX-70フィルム再生産プロジェクトチーム」もほぼ雲散霧消に近い状態となっていた。ところが、その再生産を強く望む男がポラロイド社外にいたのだ! UNVERKAEUFLICH handels GmbH社長フローリアン・キャプス、通称Doc(ドック)。彼のことはポラロイド在籍中から知っていたが、取引を開始したのはエー・パワー設立後のこと。彼は元ロモグラフィック・ソサエティの社員でロモのやり方とそりが合わなかったこと、根っからのポラロイド好きだったことから同社を設立。ポラロイドを愛することではドクター・アンドに勝るとも劣らない人物である。

手作業でのフィルム作り

彼が艱難辛苦を乗り越えSX-70 BLENDフィルムの発売にこぎつけた。そんな話を聞き捨てにするわけに

感度: ISO 640相当
フォーマットサイズ
: 10.7 × 8.8 cm
実画面寸法: 7.9 × 7.7 cm
価格: 1パック10枚入り
2本入りツインパック
¥5,880
発売: 2006年11月21日
問合せ: エー・パワー
(04)2923-5234



はいかないと、ほとんど慈善事業的に日本総代理店を引き受けたというわけだ。その艱難辛苦とは?

カセットごとにNDフィルターが貼ってある

NDフィルターは手作業で貼られている

以上の2点により、いくら売っても製造原価が下がらない。さらに、彼はSX-70 BLENDフィルムの全世界における販売権を得る過程で、ポラロイドに対し「Polaroid」のブランド使用料を払っているのだ。

余談だが、米国ポラロイドではこれまでも他社が製造したデジカメや電池にポラロイドのロゴを付しそのロイヤリティを得るというブランド・ライセンス・ビジネスを積極的に実践してきたが、自社商品たるインスタント・フィルムのブランド・ライセンスは今回が初。結果として、SX-70カメラファンには誠に申し訳ないが、応分のご負担をお願いすることとなった。ただ、今後は銀塩写真の存続を願う者がそれぞれ負担していくのが通例となるであろう。赤字ローカル線存続のように、...

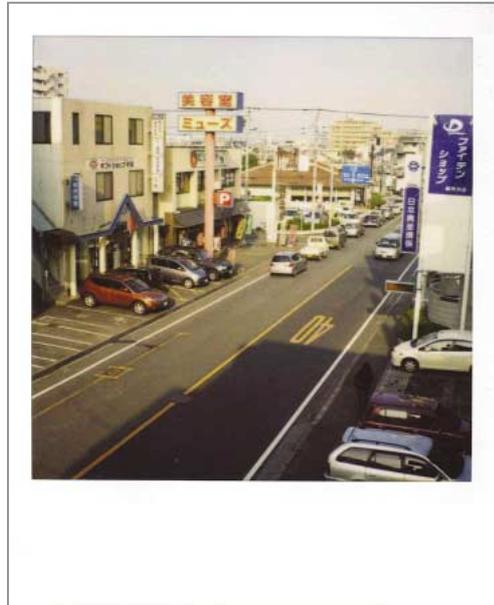
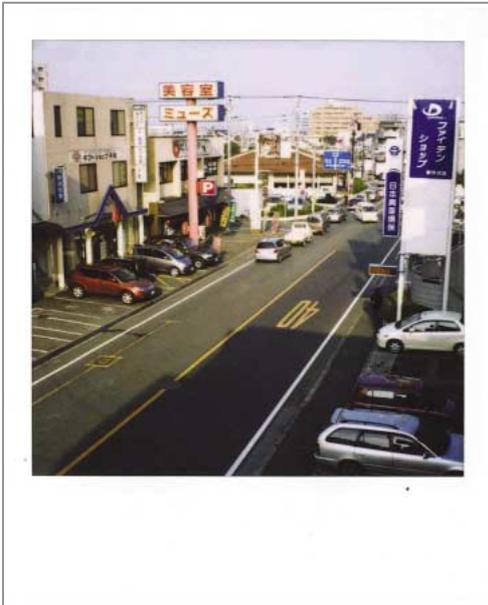
ピンホール80やPOLGAに使われるT-80シリーズフィルムの販売終了もつい最近発表された。600やスペクトラフィルムだっていつなくなってもおかしくないのだ。

今後日本ポラロイドでも600やスペクトラフィルムを徐々に値上げしていくと思われるので、SX-70 BLENDフィルムとの値差も縮んでいくことであろう。

過去最高の発色

では、そのような高いフィルムをはたして使う意味があるのかどうか? ドクター・アンドは以下のような仮説をたてた。

仮説: NDフィルターはもともと黄緑がかっているこれを600フィルムに付けて撮ると、もともと黄色味の強い600フィルムがよけい黄色く写る。



SX-70 BLENDフィルム

600フィルム

結果はまさにそのとおり。

SX-70 BLENDフィルムに使われているBlue-Blend乳剤は、はなからそれを見越し、青味を増したカラーバランスに設定しているのだ。これにより、往年の「あの」色こそ出ないものの、SX-70カメラで撮るポラロイドフィルムとしては過去最高の発色を得られるようになった。

イメージ・マニピュレーションはできないが、これも日本ポラロイドのプロモーション不足により、イメージ・マニピュレーションをやるSX-70ファンが欧米に比べて日本では格段に少ない。ドクター・アンドが

発売に踏み切った理由はこれらによるものだ。

「600フィルムが安く買える間は600フィルムを使い！」これは資本主義国家たる日本ではあたりまえのことだが、年金問題と同様、「自分さえ良ければいい」は今後通用しなくなる。あるいは銀塩市場の短命化にさらに拍車をかけることであろう。

「人間は考える葦」を証明してくれるアナログ写真。いつまでも考え続けていきたいものだ。

(ドクター・アンド：株式会社エー・パワー代表)
2005年4月銀塩写真文化の保護育成を目指し同社を設立。
SX-70 BLENDフィルム日本総代理店 <http://www.doctor-and.com>